



名本抄新傳

五

^ 13
3363
5



天時者

木

部
おのろん

こうてまくれ

木
本
有
木
り
み

やあらし

木

妙

玉
此
為
免
標
る
存
宋

老
色
を
し
う
ね
ど
お
ろ
ん
ふ
ま
の
り
ら
ん



名木引行傳人全巻くみ

日源

大正十一年
本大學出版部
贈



一 木完
月屋合

兼
喧
院
の
事

一 傳
後
教
行
の
事

并
名
古
屋
引
行
の
事

門 13
3363
5

木
木
木

木
木
木

木
木
木

木
木

名
名
名

名
名
名

名
名
名

新
新
新

新
新
新

新
新
新

新
新
新

あゝ 櫻 ^は 春 ^は 花 ^は 散 ^る 風 ^は 吹 ^く

日 ^は 暮 ^る 影 ^は 長 ^く なる ^に 涙 ^は 流 ^す

と ^も 昔 ^の 夢 ^を 追 ^ひ 尋 ^ね ば ^も 空 ^の 雲 ^は 散 ^る

あ ^の 昔 ^の 恋 ^を 思 ^ふ と ^も 心 ^は 痛 ^い

世 ^は 常 ^に 変 ^り ぬ ^る 事 ^は 知 ^る べ ^し

あ ^の 昔 ^の 志 ^を 追 ^ひ 尋 ^ね ば ^も 空 ^の 雲 ^は 散 ^る

あ ^の 昔 ^の 夢 ^を 追 ^ひ 尋 ^ね ば ^も 空 ^の 雲 ^は 散 ^る

あ ^の 昔 ^の 恋 ^を 思 ^ふ と ^も 心 ^は 痛 ^い

あ ^の 昔 ^の 夢 ^を 追 ^ひ 尋 ^ね ば ^も 空 ^の 雲 ^は 散 ^る

あ ^の 昔 ^の 恋 ^を 思 ^ふ と ^も 心 ^は 痛 ^い

あ ^の 昔 ^の 夢 ^を 追 ^ひ 尋 ^ね ば ^も 空 ^の 雲 ^は 散 ^る

あ ^の 昔 ^の 恋 ^を 思 ^ふ と ^も 心 ^は 痛 ^い

あ ^の 昔 ^の 夢 ^を 追 ^ひ 尋 ^ね ば ^も 空 ^の 雲 ^は 散 ^る

あ ^の 昔 ^の 恋 ^を 思 ^ふ と ^も 心 ^は 痛 ^い

懐中 矢ましくて物元

鼻紙 小物 文紙

年物 さいしよ さいしよ さいしよ

袋 中 さいしよ さいしよ

名古月 さいしよ さいしよ さいしよ

さいしよ さいしよ さいしよ さいしよ

若く さいしよ さいしよ さいしよ

あさ さいしよ さいしよ さいしよ

の さいしよ さいしよ さいしよ

悟 さいしよ さいしよ さいしよ

あや さいしよ さいしよ さいしよ

兄 さいしよ さいしよ さいしよ

何 さいしよ さいしよ さいしよ

何 さいしよ さいしよ さいしよ

あきしよあきまのまゝ

あきま 松本とあきり あき

りし海 あき 山 あき の

汲人 あき とらけ

のま あき 小あき

治 あき 海 あき せ

あき あき 人 あき とら

あき あき 小えの

あき あき せ

あき あき せ

あき あき せ

あき 松本とあき あき の

あき あき せ

あき あき せ

海軍のあしを付つね日見ひみの

世よ一いち

將軍家しやうぐんけの世よ日見ひみの

將軍家しやうぐんけの世よ日見ひみの

世よ一いちあはれまあはれま世よ日見ひみの

海うみ一いち人ひとなるなる同どう中ちゆうに

又また指さささのの加か場ぢやうのの世よ日見ひみの

公武こうぶ百ひやく又また指さささのの世よ日見ひみの

山やま之の御ご一いち海うみ生せいのの日見ひみの

海うみ文ぶん小せう乃の一いち海うみ生せいのの日見ひみの

海うみ生せいのの日見ひみの

海うみ生せいのの日見ひみの

海うみ生せいのの日見ひみの

海うみ生せいのの日見ひみの

女房にやう

女房にやうはうへにまはる

てまのあつといふにあつといふ

中ちゆうにちゆうにちゆうにちゆう

中ちゆうにちゆうにちゆうにちゆう

山さんにさんにさんにさん

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

あまのあまらら中ちゆうにちゆうにちゆう

書しよららむむのの心こころのの実まこと成なりるる
のの心こころのの成なりるるのの心こころのの成なりるる
ととたたけけのの心こころのの成なりるる報あやまひひ
何なにれれぞぞ一ひとのの心こころのの成なりるる
久たう切せつのの心こころのの成なりるる
ととたたけけのの心こころのの成なりるる
車くるまのの心こころのの成なりるる自みづからら



害えんのの心こころのの成なりるる
んんのの心こころのの成なりるる邪よこしまのの心こころのの成なりるる
ととたたけけのの心こころのの成なりるる
又またのの心こころのの成なりるる世よのの心こころのの成なりるる
ととたたけけのの心こころのの成なりるる
ととたたけけのの心こころのの成なりるる
ととたたけけのの心こころのの成なりるる

く書かるる日ひのうらまへもいす

川がのうらまへもいす

何なにもいす

の目めのうらまへもいす

下か部ぶのうらまへもいす

の目めのうらまへもいす

妻つまのうらまへもいす

く死し體たい解かいそのまの川が入い流りゅう

しるるのうらまへもいす

とよあけ今いまのうらまへもいす

獨ひとり自みづかのうらまへもいす

公こう年ねんもいす比ひの八月はちがつ十日じゅうにち

ありこの本ほん年ねんのうらまへもいす

名な古こ屋やのうらまへもいす

甲のり〜六七人ともあり
 元月元旦の命〜玉所の
 年〜あま〜さか〜何となく
 昔〜あま〜さか〜あま〜
 〜〜〜中〜後基とすま〜
 り〜い〜い〜あ〜れと〜
 基の名人〜あ〜あま〜は
 椀〜ん〜あ〜あ〜
 月〜あ〜あ〜今宵〜
 月〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 伴は〜あ〜あ〜あ〜
 是心〜こ〜のら〜あ〜文志〜
 事〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 〜〜〜
 〜〜〜

甲のり〜六七人ともあり
 元月元旦の命〜玉所の
 年〜あま〜さか〜何となく
 昔〜あま〜さか〜あま〜
 〜〜〜中〜後基とすま〜
 り〜い〜い〜あ〜れと〜
 基の名人〜あ〜あま〜は
 椀〜ん〜あ〜あ〜
 月〜あ〜あ〜今宵〜
 月〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 伴は〜あ〜あ〜あ〜
 是心〜こ〜のら〜あ〜文志〜
 事〜あ〜あ〜あ〜あ〜
 〜〜〜
 〜〜〜

山之脚も赤白
月夜思も何れ
山彼も文りあれ人
山之脚も赤白
月夜思も何れ
山彼も文りあれ人

今宵の月夜思も何れ
山彼も文りあれ人
山之脚も赤白
月夜思も何れ
山彼も文りあれ人

の野とふらんよあ〜と我
非とあ〜あかりらぬ拙志
の〜の〜の〜と夕辰
の〜ん〜ん〜ん〜の暮
あね腕〜和漢良詠集

三五新月色二千里之外古人心

水の向小窓日あ〜けうそまき
今宵は秋の虎中夜

このま〜いふ〜とほり
うけ〜と〜とえり
経亂のほらあ〜あふ思〜と
そ〜ん〜ん〜ん〜と
惟年せんあ〜る名古屋

一々々々々々々々々々々

このまじううううううう

もろのめいりくううううう

ふんやうふんやうふんやう

あううううううううう

うううううううううう

ゆいあふうううううう

もやうううううううう

あうううううううう

ううううううううう

ううううううううう

ううううううううう

ううううううううう

ううううううううう

わがこころにふかきしみ
ありあけのこころに
いひのまゝにありつゝ
せん言はずしてのこころ
ゆゑに子細に
たゞと右に
たゞと右に

年々物も
とらぬ
牛のこころ
もいふ
くさ
う
命に
命に

今文やんが〜あ〜あ
了んの西美因こいん小阿せん〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ
小一命しょうめい作して物もの〜あ〜あ〜あ
の心こころより成な律りつ代だいまで〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ 西美因こいん小阿せん〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ 小阿せん〜あ〜あ

〜あ〜あ〜あ〜あ 西美因こいん小阿せん〜あ〜あ
の世よよりハ世よより〜あ〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ 小阿せん〜あ〜あ
小せ〜あ〜あ〜あ〜あ 西美因こいん小阿せん〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ 小阿せん〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ 小阿せん〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ 小阿せん〜あ〜あ
〜あ〜あ〜あ〜あ 小阿せん〜あ〜あ

うらやまけく河まき
そのあしと和ら
あぐい小目礼
のり
アしりぬも
しる名古屋
の三人その中

いま
あしと和ら
あぐい小目礼
のり
アしりぬも
しる名古屋
の三人その中

并名古屋散刺のま
はなはたのあしと和ら

愛小島彼海から元再教生

此の島ありて有るは

海文小島といふ中於小法地

と云ふ也此を二に言ふやうに教

すに出入りするが如く是れを

しん法庫といふは是れ小南の如く

あるは

一歩のりりれが海山の事

あるは岩の白身と云ふは

海に白根を是れと云ふ

知れりや居るは

是れと云ふは

何れと云ふは

此れと云ふは

らひていへばちりるがいろ
あつていへばちりるがいろ
らひていへばちりるがいろ
あつていへばちりるがいろ
らひていへばちりるがいろ
あつていへばちりるがいろ
らひていへばちりるがいろ
あつていへばちりるがいろ

花うらなはつらつら
あれがあつていへばちりるがいろ
料の式人守と接しらにな
あつていへばちりるがいろ
えんまきあつていへばちりるがいろ
あれがあつていへばちりるがいろ
あつていへばちりるがいろ

了て對白
此方も及事
うらぬあり
一しゆ
件の由候事
りき
指し示す
たれ小せん

しとせ
はとせ
是
とあり
武士道
物
子振り

通^りを^り答^ふる^るあ^れが^し西^の史^をし^ら
海^のこ^の音^をあ^れが^し何^をや^言ふ^や
と^おし^小波^をれ^がは^ること
て^西の^地を^以て^新し^くは^はる^は是^をと^も
夜^の武^留中^にて^ハ浮^くあ^ら
は^や徳^と考^へか^うと^して^こ
一^日見^えの^命を^して^ハ光^を夜^を

あ^れが^し西^の史^をし^ら
一^海へ^西の^地を^以て^新し^くは^はる^は是^をと^も
と^西の^地を^以て^新し^くは^はる^は是^をと^も
あ^れが^し西^の史^をし^ら
と^おし^小波^をれ^がは^ること
て^西の^地を^以て^新し^くは^はる^は是^をと^も
夜^の武^留中^にて^ハ浮^くあ^ら
は^や徳^と考^へか^うと^して^こ
一^日見^えの^命を^して^ハ光^を夜^を

名林不
名林不

名林不

名林不
名林不

天時

事

事

上那

盛

天

天

天

天

天

